

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

令和3年6月7日

大牟田市13校スクール
担当者通信

No.107

コロナ禍の中で、各学校では創意工夫しながら教育活動に取り組まれていることと思います。今年度も、ユネスコスクール便りでは、ESD/SDGsに関する大牟田市内の各研修、各学校の実践、また様々な情報をお届けしていきます。最新の情報を基に、各学校のESDが更に充実していくことを期待しています。

特色ある実践事例の紹介

学ぼう 地域の食文化「黒崎串だご」

～食文化を守る～手鎌小学校



5年生の子どもたちは、4年生のときに黒崎の歴史を学習し、黒崎は米作りのために干拓して土地を広げたことを知りました。5年生では、干拓の仕事の疲れをとるために100年以上前から食べられている、郷土の伝統食「黒崎串だご」作りを体験します。校区の田んぼで稲刈りして収穫したお米で、地域の皆さんから作り方を習いながら「串だご」を作ります。地域の皆さんが、先人の思いとともに「串だご」を大切に守り継いできたことを知った子どもたちは、自分たちがこの伝統の食文化を守り継いでいかなければならないと考えました。

郷土を守り、伝統文化を受け継いでいこうとする気持ちを、いつまでももち続けていくことを願っています。



「串だご」をつくる児童

地域の一員として

ともに未来を創っていく海洋教育 駛馬小学校



駛馬小学校では、諏訪川と有明海のつながりを、生息する生き物、環境、産業・資源の視点で調べました。川や海にすむ生き物の多様性や希少性と、その生き物の生態を維持するための環境の大切さに気付きました。

また、大牟田の基盤となった石炭は海の恩恵であるということを見つめ直しました。そして、川や海を守るために自分たちができることを考え、実行し続けていこうという意欲をもち、川や海の価値をたくさんの方々に発信することができました。



学習した石炭の価値を、ガイドを通して伝える児童

● 本年度の役員・委員等

本年度のユネスコスクール担当者会役員等を紹介します。

〈令和3年度 ユネスコスクール担当者会〉

会長：松尾博之（大正小） 福永嘉治（宮原中） 担当校長：荒木秀敏（天領小）
副会長：宮崎紀子（みなと小） 杉野浩二（宮原中） 担当教頭：藤木春美（中央小）
部長：下地 徹（みなと小） 副部長：家永健三（橘中）
推進委員：廣松隆広（玉川小）、横川順一（中友小）、木村光輝（銀水小）

教えて！ 大牟田のESD



本年度、大牟田市に採用された先生方と一緒に、ESDと新学習指導要領について確認していきましょう。

Q:「ESD」とは何ですか？ 新学習指導要領とどのようなかかわりがありますか？

「ESD」とは、Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略です。世界には、気候変動や自然災害、飢餓、感染症など地球規模の様々な課題があります。ESDは、これらの課題の解決に向け、持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力を育む教育です。

新学習指導要領の前文には、「一人一人の児童生徒が、（中略）持続可能な社会の創り手となることができるようにする」という文言があります。また、「生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」「学んだことを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力・人間性等」と、育成を目指す資質・能力が示されています。これらは、変化を乗り越え、予測困難な時代を生きるための資質・能力であり、ESDで育成を目指す資質・能力に重なるものです。新学習指導要領の趣旨と目指す資質・能力を踏まえて、ESDを推進していきましょう。